

# 隼人族の森を渡る風

新連載 第1回

A Happy New Year

森の彫刻家 上床利秋

かつて私が鹿児島市の住宅地を本拠地として彫刻制作をしていたころの話です。素材をFRP（プラスチック）中心に制作していると、お巡りさんが訪ねてきて職務質問を受けたことが数回ありました。当時カルト宗教団体が世間を騒がせていた時代でもありました。

もみ殻を使ってテラコッタ素焼き作品を焼成していると今度は消防車がサイレンを鳴らしてきたこともありました。煙を心配した近隣からの通報があったので確認に来られたということです。「安全」のお墨付きをいただいたものの、私は周囲に気兼ねしなくてもいい場所を探すようになりました。霧島市の不動産屋さんに相談してみて数ヶ月、隼人の森を紹介していただいたのが現在の杉アトリエの始まりです。今から約十年前の話です。

以来杉アトリエは少しずつ成長しています。この森の中で作家活動を続けることで文化情報誌モニターとの関係も深まっていきました。

表現手段が彫刻制作ですから俗に言うアトリエのイメージよりはラボラトリー「研究所」またはファクトリー「工場」に近いのですが、余所行きの額縁に収まった作品を紹介するということだけでなく普段着の創作の現場を紹介できればと考えています。そして少しでも表現する意味をエッセイにしていけたらいいと思っています。

日展会員  
第一幼児教育短期大学 教授



干支「暁に立つ」

